



共生の時代

'12
3月

●発行:グリーンコープ共同理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号 カーニープレイス博多3階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



「食環境を考える会」代表

古賀 富士子 さん

思 い立ったら即行動。石橋を渡る時は、二応たたまますよ。でも、たたき方が他の人とはちよつと違うかも。軽くコンコンって感じかな。少しおどけた表情で笑う。「元氣と明るさだけが取柄」と屈託がない。インスタントラーメンは食べないという家庭に育ち、食に対する意識は高かった。グリーンコープの組合員活動や学習会を通して、原料や添加物、農業についてなど、食への意識はさらに深まり、ひいては食をとりまく環境へと関心が広がっていった。支部委員長時代、久留米市の学校給食が民間委託されることに疑問を抱き、「久留米学校給食を考えよくする会」というサークルをつくった。学習会や教育委員会へ意見を届ける活動などをしてきた。いつも一人の母親として「子どもたちにとっていいことなのか」が判断のベースにあった。

2006年、活動の幅を広げたいと「食環境を考える会」を立ち上げた。もつと食環境に関心を持つてほしいと若い組合員にも声をかけ、現在30代前半から50代の20人ほどで活動を続けている。活動の中心は、食をとりまく環境についての勉強。「といっても、活動は楽しくないと。自分たちがやりたいと思ったことを、楽しみながらやっています」。給食の調理員を招き子どもの食生活について話を聞いたり、夏はそうめん流し、秋は芋煮会など、大人も子どもも楽しく参加できる活動ばかり。若いメンバーに子育てについてのアドバイスをしなが、食の大切さや環境の話なども織り交ぜる。「安心・安全な食べものを多くの子どもに食べさせたい。自然に触れて環境の大切さも感じてほしい」そんな願いをこめてプランを考える。

食環境を考えていくと、必ず原発問題にもたどり着く。昨年11月には、会で「さよなら原発」をテーマにしたイベントを開催した。今年も博多湾に風力発電の実証実験場を見学に行く予定だ。若いメンバーにも、見て考えて、声を上げてほしい。「子どもや家族の健康を守るのはあなたよ」とはつばをかける。「小さな力ではないけど、見て見ぬふりはいけないと思うんです」。

昨年、地域の民生委員を引き受けている。高齢者の家を回り、話し相手になったりお弁当を届けたりと忙しい。介護の相談を受けることもある。「グリーンコープの福祉ワーカーズをすぐに紹介しました。すばやい対応で助かったと感謝していただきました」。これまでグリーンコープで培った知識とネットワークを、地域でも生かしている。

組合員活動も会の活動も、「なせばなる」と、全力でぶつかってきた。その精神は今も健在。「これからはもっと地域のために役に立ちたい」と、思いはさらに広がっていく。

なにげとも元気に楽しく、全力投球

100万人の キャンドルナイト Candle Night

2012年3月11日
グリーンコープは
100万人のキャンドルナイトを呼びかけます。
あの東日本大震災から1年
一人ひとりの思いを胸に
自分なりのやり方で。

でんきを消して、スローな夜を。
100万人のキャンドルナイト

Contents

2011年度脱原発学習会	
東京電力福島第一原子力発電所の事故が起きてしまった今、私たちにできること	2
うちのメーカー・うちの生産者⑩	
グリーンあさくら	3
「スタート集会」報告	
産直畜産物を食べて、日本の畜産と私たちの安心・安全な食べものを守りましょう!	4・5
暮らしに生かされているBMW技術	
生物活性水「BMそら」・「BM菌体」利用者アンケート報告	6
「1人1袋」の利用で守ろう! 国産落花生	
地域へ広がる子育て支援	7

この春、めでたく?組合員活動を卒業することになった。振り返ると、どの経験もとても貴重で忘れないものばかりだが、一番印象に残っているのは、東日本大震災の被災地訪問の際に出会った方々だ。特に亘理町で出会った斎藤さん一家は、うじて残った自宅の2階で小さいお子さんを抱え、大変な生活を強いられている。行政からの支援は薄く、視察に来た事を告げたら涙目で「本当にグリーンコープさんにはお世話になって」と感謝された。震災の話題がTVで流れるたびに、私は、あの

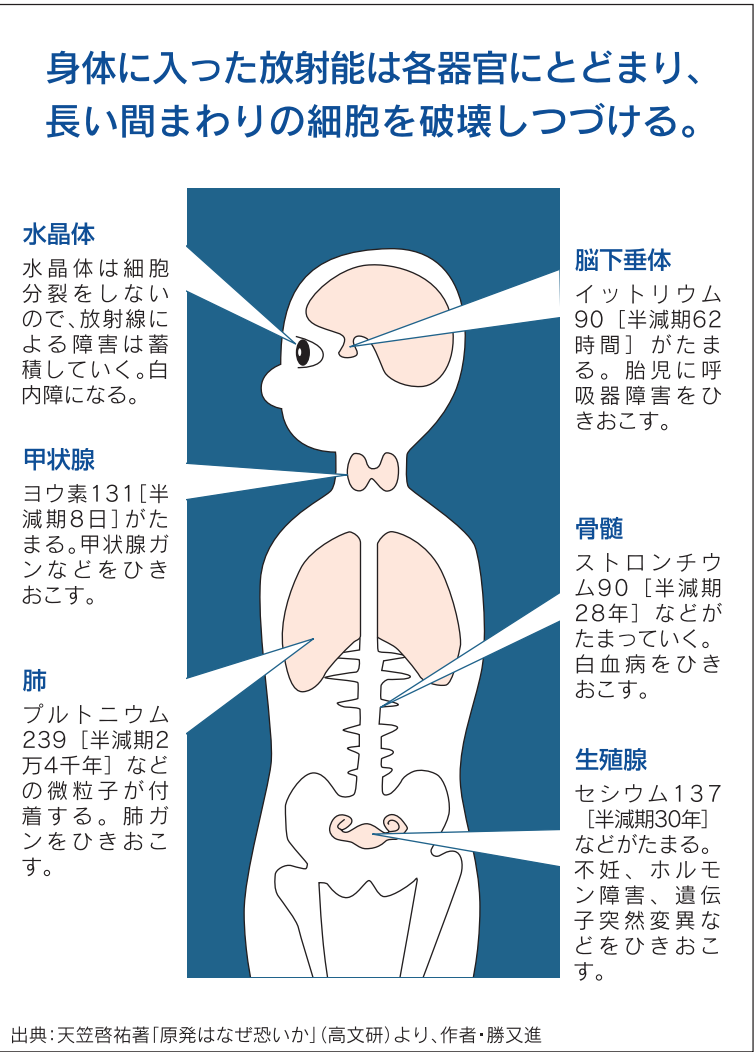
送 信

時出会った方々がどうしていらつしやるのかと思いを馳せる。3・11の大震災からもうすぐ1年、「絆」という言葉が日本を覆い、良くも悪くも日本は「助け合って生きていく」という事に少しずつ歩きだしているような感もある。しかし原発の問題などまだまだ取り組む事は数多くある。そんな想いを残しつつ、春には次のステップへ進む。自分は今から何が出来るのかを時間をかけて探していきたいと思う。

グリーンコープ生協くまもと理事長
久米田 薫



(図1)



(表1)

	物理的半減期 放射線を出す能力が 半分になる期間	蓄積し影響を うける臓器	生物学的半減期 いったん体内に取り込まれた 放射性物質が排泄作用などに より体内から失われ半分に減 るまでに要する期間
ストロンチウム90	28年	骨	50年
ヨウ素131	8.0日	甲状腺	138日
セシウム137	30年	全身	70日
プルトニウム239	24100年	骨・肺	200年

首都圏に供給する食品の中心的な産地が被災し、農業が計り知れない被害を受けたことで、海外からの輸入食品が急増した。食品の安全を守るためにも、日本国内の有機農業や環境保全型農業による食品を大切にしていかなければならない。原材料の安全性が確認できない加工食品はできるだけ

正確な情報を求めて

首都圏に供給する食品の中心的な産地が被災し、農業が計り知れない被害を受けたことで、海外からの輸入食品が急増した。食品の安全を守るためにも、日本国内の有機農業や環境保全型農業による食品を大切にしていかなければならない。原材料の安全性が確認できない加工食品はできるだけ

グリーンコープは、原子力発電を「いのち・自然・暮らしを脅かし、未来の子どもたちに大きなつけを負わせるものであり、共存できるものではない」と考え、脱原発に取り組んできました。

1月16日に、グリーンコープ共同体組織委員会の主催で、原発事故そのものと現状の問題点などについての学習会が行われ138人の組合員が参加しました。

2011年度
脱原発学習会
主催・グリーンコープ共同体
組織委員会

東京電力福島第一原子力発電所の事故が起きてしまった今、私たちにできること

原子力発電と原子爆弾は同じ原理。核分裂連鎖反応が一瞬にして起きるのが原発で、コントロールしなからゆっくり爆発させるのが原発だ。千分の1秒単位でのコントロールが必要ほど危うく、原発は制御を誤ると原発と同じ状態になる。また、核燃料は2600℃で燃えており、この温度に耐えられる材料がないため、水が失われると炉心溶融が起きる。福島事故はこのケースで、広島・長崎の原発とは比べものにならないくらい大量の死の灰(核分裂生成物)を環境中に放出してしまった。

放射能の毒性とは

放射能はヒトの五感では感知できず、臭いもなく目にも見えない。放射能の毒性を減らすことができるのは「時間の経過」だけだ。毒性が半分になるまでに必要な時間(物理的半減期)は、放射性物質の種類によってそれぞれ違い、ヨウ素131で8日、プルトニウム239では24,100年と、物質によって大きな差がある。(表1参照)

今回の事故により、日本全国を汚染したのが主にヨウ素とセシウム。プルトニウムやストロンチウムは微粒子じん状になり、質量が大きいため遠くへ飛散することなく原発施設の近くに降り積もった。骨に蓄積され微量でも大きな健康被害を与えてしまうプルトニウムやストロンチウムは半減期も長く、これから大きな問題になってくる。

放射線障害がもたらす病気

放射線による健康被害は、被曝量に応じてリスクは高くなる。遺伝子は傷つけられ、がんや白血病だけでなくさまざまな病気にかかる人が増加する。傷つけられた遺伝子が原因で起きる病気の1万種類ほど分かつており、免疫力の低下による感染症や慢性疾患、手術後の回復も困難になるなどのおそれもある。今回の原発事故では、震災の被害も重なったことから、「心の病」にかかる人も増加すると思われる。

放射線障害には、さらに相加・相乗作用がある。震災で壊れた建築物から拡散



あまがさ ばいすけ
講師 天笠 啓祐

環境問題を専門とするフリージャーナリスト。日本消費者連盟共同代表・市民バイオテクノロジー情報室・遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン代表。東京都在住

地面に落ちたり衣服や髪、皮膚に付着した放射能による被曝(外部被曝)は、放射線源から物理的に離れることで被曝を避けられるが、放射能に汚染された食品や水によって身体の中に入った放射性物質は、各器官にとどまり、放射線を出してまわりの細胞を破壊し続ける(内部被曝)。ストロンチウムは骨に蓄積され、生物学的半減期(表1参照)は50年と長い間、お墓の中で骨だけになっても放射線を出し続ける。人体に影響を及ぼし続ける内部被曝は、外部被曝よりさらに危険度が高いと言える。(図1参照)

放射線被曝は成人よりも子ども、胎児への影響のほうがはるかに大きい。被災地では、胎児への被曝を懸念して若い母親たちが墮胎という大変つらい選択を余儀なくされていた。さまざまな悪影響を連鎖的に引き起こす原発事故の罪の深さを、強く感じずにはいられない。

1980年に、スウェーデンは脱原発を決めた。それまで電力の50%をまかなっていた原発の是非を、国民一人ひとりが考えた国民投票の結果だ。脱原発を決めた欧州各国には、国民投票制度がある。まずは、「原発を続けるか、続けな

したアスベストやダイオキシン類などの環境汚染物質が、遺伝子を傷つける頻度をさらに高める。

外部被曝と内部被曝

地面に落ちたり衣服や髪、皮膚に付着した放射能による被曝(外部被曝)は、放射線源から物理的に離れることで被曝を避けられるが、放射能に汚染された食品や水によって身体の中に入った放射性物質は、各器官にとどまり、放射線を出してまわりの細胞を破壊し続ける(内部被曝)。ストロンチウムは骨に蓄積され、生物学的半減期(表1参照)は50年と長い間、お墓の中で骨だけになっても放射線を出し続ける。人体に影響を及ぼし続ける内部被曝は、外部被曝よりさらに危険度が高いと言える。(図1参照)

放射線被曝は成人よりも子ども、胎児への影響のほうがはるかに大きい。被災地では、胎児への被曝を懸念して若い母親たちが墮胎という大変つらい選択を余儀なくされていた。さまざまな悪影響を連鎖的に引き起こす原発事故の罪の深さを、強く感じずにはいられない。

私たちにできること

1980年に、スウェーデンは脱原発を決めた。それまで電力の50%をまかなっていた原発の是非を、国民一人ひとりが考えた国民投票の結果だ。脱原発を決めた欧州各国には、国民投票制度がある。まずは、「原発を続けるか、続けな

避け、食品は素材から調理することが大事だ。可能な限り放射能に汚染された食品を減らすには、測定と情報公開(ベクレル表示)が必要だ。そのために、私たちは食品に関する正しい情報の公開を求め続けることが大切だ。

私たちにできること

1980年に、スウェーデンは脱原発を決めた。それまで電力の50%をまかなっていた原発の是非を、国民一人ひとりが考えた国民投票の結果だ。脱原発を決めた欧州各国には、国民投票制度がある。まずは、「原発を続けるか、続けな

グリーン あさくら



小松菜



大根



キャベツ



きゅうり



人参



玉ねぎ



なばな菜



小ねぎ



パセリ



グリーンあさくらの皆さん 前列左から2人目が本園ヒロ子さん

自分たちが栽培した安心・安全な野菜を、家族だけでなく多くの人に食べてもらおうと奮起したメンバーが、無（減）農薬栽培野菜の販売をはじめたのが1972年頃。「土の香グループ」の誕生である。その2年後には農協中央会の紹介で、グリーンコープ生協ふくおかの前身生協との産直がはじまった。増え続ける組合員からの注文に応えるため、1989年に同じ農協内に

を何よりも願う彼女たちは「この問題を解決できるのは循環型農業しかない」と考えた。

今から50年近く遡った1964年、朝倉町農協婦人部営農学級のメンバーから、グリーンあさくらの前身となる生産者グループが誕生した。営農学級に集まったのは兼業農家の主婦たち。家族のため、家計のために庭先の畑を利用した野菜栽培をしていた。彼女たちは営農学級で学ぶ中で、食べものが命を育み健康をつくるということを改めて知った。その頃、世の中では農薬や化学肥料の大量投入による農薬事故や環境汚染が社会問題となりはじめていた。母親として家族の健康

現在のメンバーは男性5人を含む31人。83歳を筆頭に80代、70代も元気に活躍している。半世紀前の発足当時からメンバーである本園ヒロ子さんは「当初から一緒に7人で、共同購入やお店以外に、地域の青市にも野菜を出荷しています。だから毎日朝早くから暗くなるまで忙しいけれど、いつも一緒にいられるから楽しいですよ」と話す。世代交代して二代目の生産者も増えはじめたが、無（減）農薬栽培を貫く姿勢はしっかりと受け継がれている。今年度会長の佐藤明美さん

として生まれ変わった。
半世紀を経ても
変わらぬ思い

新しい産直グループ「青葉会」が発足。しばらくは土の香グループと青葉会がそれぞれに、グリーンコープの産直生産者として青果を出荷した。組合員との交流や技術向上のための視察研修にも熱心に取り組んだ。しかし、年月を経る中でメンバーの高齢化がすすみ、次第に生産量も減少。窓口を一つにして一人ひとりの負担を減らそうと、2003年に2つのグループが統合。「グリーンあさくら」

に携わっているからこそで
しょうが、ここ数年の気温
の変化や長雨はとても気
になります」と佐藤さんた
ちは口を揃えて語った。気
象の異常によって生産の計
画が大きく狂ってしまうこ
とが続いている。昨年真夏
日が続いたときは、小ねぎ
のハウス内に虫が大量発生
し出荷できなかった。大雨
や長雨で収穫直前の作物が
一夜で台無しになることも
ある。「精一杯がんばって
作った野菜が出荷できない
時は、組合員さんに申し訳
ないし、私たちもくやしい。
でも私たちには、母たちの
時代からずっと、安心・安
全な野菜を作ってきたとい
う自負があります。丹精を
込めて育てたものは絶対お

も母親の代からの生産者。「母は畑作りからはじめて、そこで収穫した野菜で収入を得るという道を作ってくれました。だから後を継ぐことは私にとつて自然なことでした」と語る。同じく今年度役員として副会長を務める西川美和さんと岩下百合子さんも二代目生産者である。



本園さんの畑では、農薬を使わずに栽培した自慢のなばな菜が旬を迎えていた

今年度役員の3人。左から、西川美和さん、佐藤明美さん、岩下百合子さん

「おいしいです」と話す佐藤さんたち3人の顔は自信に満ちている。

大きな家族のように

2011年度、グリーンコープ全体で「お米と野菜を食べよう！」に取り組み、多くの組合員や職員・ワーカーズが生産者と交流した。グリーンあさくらに各単協から産地交流に訪れた回数、1年間で31回にもものぼ

披露した。「先輩の皆さんから伝統的な料理を学ぶこともでき、私たちが自身も勉強になりました」と佐藤さん。グループ全員が役割を、もって共に助けあう姿は、まるで大きな家族のようだ。グリーンあさくららの平均年齢は70歳。後継者を増やすことが急がれる。「グリーンコープに出荷することで安定して生産を継続することができ、私が母か

グリーンあさくらの栽培品目と出荷時期の表



る。夏休みには子どもも連れる。多くも賑やかだった。「昨年は例年以上にたくさんさんの組合員さんが畑を見学し収穫を体験しました。自然を相手にする苦労ややりがいなども直接お話することができ、とてもよい交流の機会になりました」と佐藤さんたちが語ると、先輩メンバーが「若いあなたたちが段取りしてくれたから助かった」とすかさず労をねぎらう。交流会では生産者がそれぞれ自慢の野菜料理を

ら畑を受け継いだように、私から次の世代に手渡していきたい」と話す佐藤さんに、「農業の楽しさややりがい」を若い人たちに伝えていきたい」と西川さんと岩下さんが続いた。

おいしくて安全な野菜と共に、グリーンあさくらのお母さんたちの心は、これからも確実に受け継がれていく。

※組合員が自主的に運営して、青果などを販売したり分けあいする青空市場

べて、日本の畜産と 安全な食べものを よう！

スタート集会

参加者

・産直の牛・豚・若鶏・びん牛乳・たまごの各生産者、
・パッカー、ハム・ソーセージメーカーなど110人
・各単協の組合員118人
・共同購入・お店ワーカー、事務局など187人
合計415人

グリーンコープの「産直」は、組合員が望む「安心・安全な食べもの」にとつて、とても大切な取り組みです。2011年度の「お米と野菜」に続き、2012年度は、「産直畜産物」を重点方針としてグリーンコープ全体で利用普及に取り組みます。

1月31日福岡市で、生産者・パッカー・メーカーと組合員が一堂に会して、「スタート集会」が開催されました。今年度の方針の意義を確認し、それぞれの思いを共有し、取り組みへの気持ちを一つにする場となりました。



グリーンコープ共同体
代表理事 田中 裕子さん

組合員と生産者で、
元気に力強く
アピールしてこう

開会にあたって、グリーンコープ共同代表理事の田中裕子さんが「2011年度のお米と野菜の取り組みでは、生産者と組合員が心をつなぐすめて成功しました。2012年度も元気に力強くすめていきましょう」と挨拶しました。

集会では、7単協の組合員と生産者が合同で、また畜産物ごとに生産者から、そして最後に各単協からそれぞれ力強く楽しいアピールが行われました。畜産物に対する生産者の思いやこだわりはもちろんのこと、試行錯誤しながら生産する



産直びん牛乳生産者

- ・菊池地域農協
- ・雪印メグミルク
- ・熊本県酪連

グリーンコープの牛乳は、「繁殖・搾乳」の段階で、non-GMO（遺伝子組み換えでない）の飼料を与えた乳牛から搾った生乳が原料

熊本県の菊池地域農協のnon-GMO牛乳生産者会委員長 築地久芳さん「産直びん牛乳の原料となる生乳を生産しています。生産者は365日毎朝5時に起きて生乳を搾り、えさやりなどの世話をし、牛が健康でいられるよう一生懸命育てています。だから組合員みなさんに安心・安全な牛乳を届けることができます。えさの高騰、燃料費の上昇などで経営は厳しいですが、精一杯続けていきます。これからもご利用よろしくお願ひします」

女性部会代表の桜井栄子さん「産直びん牛乳のふるさと菊池は、みどり豊かで水もおいしい地域です。そこで私たちが作る牛乳を安心して飲んでください。今日は手作りの生キャラメルとモッツアレラチーズを持ってきました。これはグリーンコープの牛乳でないと、おいしく作れません」



グリーンコープ生協おおさか
理事長 藤原 登美子さん

生産者の頼もしい姿に感動したり、交流を通して産直への理解を深めた組合員のようすも語られました。また、後継者紹介の場面では会場から温かい拍手が送られました。

利用が低迷している厳しい状況の中、2012年度は多くの畜産物の値下げが実現します。また、できるだけ多くの生産者と出会うような取り組みをすすめます。おおさかの理事長藤原登美子さんが終わりの挨拶で「日本の畜産を守っていきけるよう、もつともつと利用してもらえよう、グリーンコープの産直畜産物の良さを伝えていきましょう」と集会を結びました。

基調提案



グリーンコープ連合
専務理事 片岡 宏明さん

昨年は「お米と野菜」の取り組みで、グリーンコープの根幹の産直について確認しあうことができました。そして、今年度は産直畜産物に取り組みます。

現在、日本の畜産物は危機的な状況にあります。例えば、養豚農家は過去30年の間に20万戸から5000戸と激減しています。安い輸入肉に押され、小規模では経営が成り立たなくなっています。効率性が優先される大規模な生産の結果として、畜産物が食べものではなく、いのちを感じられない「商品」になっているのではないかと、という問題が

生産者と組合員、出会って、語って、 産直畜産物のすばらしさを実感しよう

あります。私たちはいのちをつなぐために、動物のいのちをいただいています。

ています。

「びん牛乳」はグリーンコープの食べものの代表選手です。安心・安全な牛乳が飲みたいという組合員の思いにこたえてくれる生産者・メーカーの三者の思いが一つになって、生乳本来のおいしさを生かし、non-GMO飼料で、ノンホモ・パステライズ殺菌のびん牛乳が実現しました。同じように、牛・豚・若鶏も、たまごも日本一といえるような食べものばかりです。しかし、そんなびん牛乳も利用が低迷し、生産者が365日搾乳している生乳を生かしきれない状況が生まれています。

グリーンコープの牛乳や肉、たまごは価格が高いといわれますが、品質がよいだけで高いのではなく、継続

続いて生産を続けるために必要な、適正価格なのです。生産者が継続して生産を続けなければ、私たちは安心・安全な畜産物を食べ続けることができません。それでも、一人でも多くの組合員に利用してもらおうと、生産者のみなさんが知恵を寄せあい、努力と工夫を重ねることで、今年度、畜産物の値下げが実現します。

安心・安全な畜産物を食べ続けるためには、一緒に食べる仲間を増やすことが必要です。今年度、ここに集った私たち、組合員・ワーカーズ・職員事務局の实感を伝えたい、生産現場に近づく取り組みを行います。1人でも多くの組合員に周りの人に、グリーンコープの食べものの素晴らしさを語っていきましょう。

産直牛生産者

- ・南阿蘇畜産農協
- ・大根占肉質検定牧場
- ・菊池地域農協
- ・下郷農協
- ・薩州開拓農協
- ・岡山ふたみ牧場
- ・全開連
- ・興農ファーム



グリーンコープの産直国産牛は、non-GMOのトウモロコシ等を与えて、生産者の努力と工夫で大切に育てられている

南阿蘇畜産農協の林田直行さん「和牛肥後あか牛はヘルシーでジューシー、大変おいしいのですが、一般にはほとんど流通しません。グリーンコープのみなさんだけが食べることができる貴重な牛肉です」

薩州開拓農協の樽水浩さん「産直国産牛をさらに安全に美味しく利用してもらえようように努力します。日本の畜産と一緒に守りましょう」

菊池地域農協の東孝一さん「自然豊かで水も空気もきれいな環境の中、家族全員で心をつなげて、愛情を込めておいしいと言ってもらえる産直国産牛づくりを頑張っています。私たちの気持ちも一緒に食べてください」

鹿児島県大根占肉質検定牧場の野元寿郎さん「鹿児島黒毛和牛は、大自然の中で一年中放牧し、自然交配、自然分娩というこだわりを持って育てています。一度食べたら良さがわかってもらえると思います」

北海道興農ファームの本田廣一さん「興農牛は、雄のホルスタインを、牛の自然の生理に従って未去勢で生産する、他にはない牛肉です。えさも90%国産化できました。みなさんの利用をお願いします」

組合員と生産者 合同アピール

長く利用し続けて応援します

- ・グリーンコープ生協とっとり
- ・グリーンコープ生協(島根)



井上養鶏場が鶏インフルエンザの被害を受けたときのようすの劇と、交流会のようすも合わせて報告。

生産者の井上さん「みなさんの励ましで再建できました。新しい鶏舎は自然の風や光を取り込みながら、暑さや周辺環境にも配慮して建てました」組合員「長く利用し続けることが最大の励みです」

『明日の命のために』『夢をもって』取り組んでいます

- ・グリーンコープ生協おかやま
- ・岡山ふたみ牧場 産直岡山ふたみ牛 産直放牧黒豚



組合員と生産者の一問一答形式でアピールをした。「明日の命のために」をモットーに、国産飼料(飼料米)を10%配合した「産直岡山ふたみ牛」の供給をカタログGREEN 4号よりはじめます。産直放牧黒豚も「夢を持って」子や孫のように愛情込めて育てています」

広々とした環境で伸び伸び育つ放牧黒豚

- ・グリーンコープ生協さが
- ・グリーンコープ生協(長崎)
- ・「ぶーふうー黒豚委員会」
- ・西岳高原農場 産直放牧黒豚



昨年「ぶーふうー黒豚委員会」が西岳高原農場を視察したようすを報告した。「バイオベッド(発酵床)を導入した豚舎、長崎県産規格の外バレイショを加えた独自の配合飼料、広々とした放牧場で産直放牧黒豚は伸び伸びと育っています。脂身にも旨味がありおいしいですよ」

生産者との出会いで良さを実感

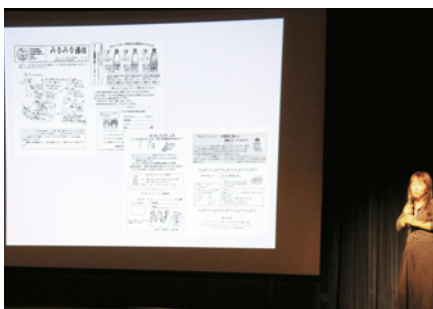
- ・グリーンコープ生協おおいた
- ・グリーンファーム久住 産直たまご
- ・下郷農協 産直耶馬溪地鶏



組合員「生産者と出会った組合員の家族が産直たまごの大ファンになったそうです。産地交流では下郷農協が地域に根ざし、誇りを持って生産していることがよく分かりました。たくさんの方と生産者と交流する予定です」下郷農協の生産者「小さい農協ながら頑張っています。4月から産直耶馬溪地鶏を供給します」

産直びん牛乳のよさを伝えたい

- ・グリーンコープかごしま生協



かごしまは産直びん牛乳の生産者・メーカーと出会う機会が少ないことから、「みるみる通信」を発行し組合員の関心を高められるような工夫をしてよさを伝えていくこと、職員と連携して発行週の配達時にひと声かけることで産直びん牛乳の予約利用が伸びたことなどの報告があつた。

産直畜産物を食べ
私たちの安心・安全を守りまし

主飼料にはnon-GMOの原料を使用し、180～210日程度かけてじっくり肥育。味のあるおいしい豚肉ができる

産直豚生産者

バック、ハム・ソーセージメーカー

- ・紅会
- ・綾豚会
- ・夢牧場グリーンファーム但馬
- ・西岳高原農場
- ・清村養豚場
- ・岡山ふたみ牧場
- ・矢野畜産
- ・イサミ岡山フンド
- ・山寺屋
- ・福留ハム

さん「最近注文が減ってきていて、自慢のおいしい豚肉も生産の3割は一般の流通に出さないといけない状況です。私たちはnon-GMO飼料の安全でおいしい豚肉にこだわって、養豚を続けています。後継者も育っています。産直豚肉を利用したことのない組合員さんはぜひ利用してみてください。利用している方も、いろいろな部位を、1パックでも多く注文をお願いします」

豚肉を処理しパック詰めするパッカーの矢野畜産白石大志さん「私たちは組合員さんの声を聞きながら、生産者と話をしながら豚肉をパックしています。生産者はがんばっています。最近利用が減少し、利用部位も偏ってきています。安心・安全な産直豚肉を、まんべんなく食べて支えてください」

生産者アピール

各生産者から、自慢の安心・安全な産直畜産物のアピールがありました



山口県の秋川牧園の甲斐利光さん「鶏肉の利用が伸びていません。今後いろいろな企画もしますし、出かけていって組合員のみなさんとの交流もしていきます。若い生産者も育ち、みんな頑張っています。ぜひ食べてください」

熊本県の大矢野原農場の日永輝夫さん「後継者が昨年11月から養鶏を学んでいます。常に健康な鶏をと考えて育てています」

グリーンコープの産直若鶏は平飼いの開放鶏舎で、1羽あたりのスペースも一般より広くゆったりと育てられている。non-GMOで植物由来の原料飼料を使用して育てられ、60日齢以上で出荷される

産直若鶏生産

- ・秋川牧園
- ・大矢野原農場
- ・下郷農協



グリーンコープの産直たまごはnon-GMOの飼料で育てた健康な母鶏から産まれる。母鶏は開放型鶏舎でストレスがないように育てられている。出荷から配達まで一貫した低温流通での鮮度の良さが自慢

産直たまご生産者

- ・秋川牧園
- ・井上養鶏場
- ・菊川養鶏友の会
- ・嘉穂の里農場
- ・ヨコテ
- ・田村ポートリファーム
- ・中島養鶏場
- ・古賀養鶏場
- ・サン・ファーム
- ・那須ファーム
- ・庄村養鶏場
- ・グリーンファーム久住
- ・新田ファーム

用状況が厳しいので、春からの値下げを決断しました。今回、たまごに名前が付くのが楽しみです。私たちが食べる立場に立って、より良いものをという気持ちで生産しています。えさ、飼いや、流通、どれをとってもグリーンコープのたまごは日本一です。夏からは産地の見学も再開します。組合員のみなさんに良さが伝わったらうれしいです」

那須ファームの那須修一さん「組合員さんに支えてもらって、世代交代できるまでになりました。これまでも取り組んできた産直たまごを次世代につないでいくために、ぜひ利用をお願いします」

新田ファームの新田正知さん「全国どこをさがしても、グリーンコープのたまごのようにいいたまごはありません」

暮らしに生かされているBMW技術

生物活性水「BMそら」・「BM菌体」利用者アンケート報告

BMW技術とは

山に降った雨は、落ち葉などが積み重なった地表から地下にしみ込み、地中の土壌などを通して、長い年月をかけて地表に現れる。土壌は、植物や動物の死骸や排泄物などが、バクテリアなどの微生物によって分解されたものや、岩石などが浸食・風化したものが堆積してできている。地中を通過する水は浄化され、ミネラルを豊富に含む生命の源としての水となる。

BMW技術はこのような自然の浄化作用をモデルにバクテリア(B)の働きで、ミネラル(M)バランスに優れた、ウォーター(W)を作り出す技術だ。

1990年、グリーンコープはBMW技術に出会い、産直生産者と共に技術の導入をすすめてきました。1995年からは、生物活性水「BMそら」、1997年からは「BM菌体」を組合員の暮らしにも生かすためにカタログで取り扱ってきました。しかし、当初から見ると利用が少なくなっています。

そこで、2011年5～6月、利用実態を把握し、利用を広げることなどに生かすためにアンケートを実施。その結果が2011年11月28・29日に行われた第21回BMW技術全国交流集会以て発表されました。アンケートからは、「BMそら」の幅広い利用方法や「BM菌体」を長く利用している組合員の環境へのこだわりなども見えてきました。アンケート調査結果の概要を報告します。

BM菌体アンケート結果

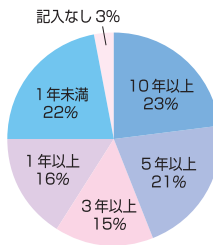


発酵鶏糞と腐植土をベースに、おがくずなどを加え、生物活性水を使って菌体を作る。その水分を少なくし、菌を休眠状態にしたものがBM菌体。生ごみにBM菌体を振りかけると、生ごみの水分で、菌体が活性化し生ごみが発酵する。それを土に埋めると、バクテリアによって堆肥になる

環境問題を考え、長期間にわたってBM菌体を使用している人が多い

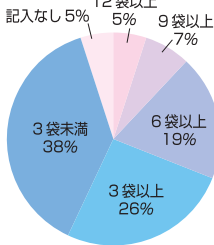
BM菌体を2010年度1回でも購入している組合員は3457人、アンケートの回収率は58.7%

Q 使用している期間



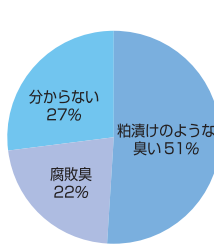
BM菌体をグリーンコープで取り扱う前から、生ごみの自家処理に取り組んでいる人も多くいる。一方、1年未満の人も多く継続が課題だ。

Q 年間の購入量



1カ月1袋未満の使用では、使用量が少なく臭いなどの問題が発生しやすいと考えられる。

Q 臭いはどうか



約半数が「粕漬け臭」と答えているが、腐敗臭の

人も2割程度いる。

Q 土に戻すための工夫

(888人が記述)

A1 生ごみを専用バケツに入れる際の工夫(25%)
細かくする(卵の殻・キャベツなど)、分別して塩分の強いものや柑橘類・骨・竹の子の皮などは入れない、水気を取るなどの工夫がされている。発酵がすすみやすいように細かくするを、水気を取るとあわせてしている人が多い。

A2 専用バケツに入れた後の工夫(21%)
発酵を促進させるために、糠や油粕を混ぜたり、バケツの中をかき混ぜる。土への埋め方の工夫としては、落ち葉や糠、堆肥、コーヒークリなどと一緒に埋める。ほぐして埋める、深く埋める、場所を変えて埋めるなどの工夫もされている。

A3 専用バケツだけではなく、他の方法で土に戻している(25%)
専用バケツから、コンポスターに移して熟成させる。コンポスターや箱などに生ごみを入れてBM菌体を利用している、庭や畑に直接埋めてBM菌体を振りかけているなどがある。

BM菌体を使って気付いたことや意見は、1110人からあった

よかったという人は64%、よくないという評価をしている人は14%、状況説明や感想などが22%

○よかったという具体的な例としては、「生ごみが減った」「土や菜園がよくなった」「庭木がよく生長する」などが挙げられている。また「手作りの野菜はおいしいし、家族みんなでリサイクルや生ごみを土に戻すことを実感している」「エコ意識が高まった」「面倒だが意識的に環境にいい事をしていく気がする」「知人や近所の人にも広めようと考えている」などの積極的な意見も寄せられている。

○よくない評価や感想としては、「バケツに水分がたまって、そのままにしていたらひどい臭いがした」「BM菌体の使用方法がよく分からない。詳しく分かる人に指導してもらいたい」などが出されている。

まとめ

アンケートには、環境問題を自身に引き寄せて考え、さまざまな工夫をしながら、BM菌体を使ってきた貴重な体験の記述も多く、アンケートが記入者の思いを振り返るきっかけとなっていると思われる。「一度も生ごみを捨てたことが無く、家庭で処理し、環境問題にささやかでも貢献している」と思っている。肥料として使い、家庭菜園の野菜は無農薬で元気に育っています」

「ものを大切にし、シンブルに生きたいと思うようになった」「土にかえるものに対する意識が高まった」など、生き方や暮らし方への思いが伺える。そして、グリーンコープらしい商品

生物活性水BMそらアンケート結果

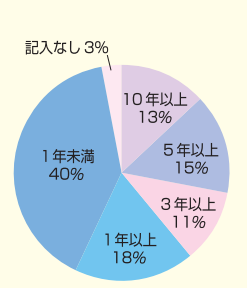


BM製性活性水を植物の排泄物や動物の糞尿を高度に生物活性水化させた健康に育つ環境を作り出す

使用効果があるという人は75%。特に植物やペット、家庭での消臭などに効果が認められている

BMそらを2010年度1回でも購入している組合員は1340人、アンケートの回収率は44.0%

Q 使用している期間



購入しはじめて1年未満が4割。継続が課題だ。一方、10年以上使用しているという人が13%。経験が多くなると生かされる工夫も必要だ。

Q 植物に使用した場合の効果について

家庭菜園・庭の草木	
なし 21.4%	効果あり 78.6%
鉢植え・プランター・観葉植物	
なし 29.9%	効果あり 70.1%
生花・切花	
なし 10.7%	効果あり 89.3%

いずれもかなり効果がある

なので取り扱い続けて欲しいという人も多い。しかし、臭いや虫などの問題で、使用をやめてしまう人や自分の使用方法を改善するための工夫を知りたいという意見もかなりある。

Q ペットに使用した場合の効果について

犬・猫・ペット全般	
なし 32.2%	効果あり 67.8%
水槽のペット	
なし 14.3%	効果あり 85.7%

ペットの飲み水に入れると消臭効果がある。また、病気もせず元気。金魚などの水槽に使用すると水が濁らない。魚も元気になるなどの効果が挙げられている。

Q 家庭での使用

台所・流し・排水	
なし 25.9%	効果あり 74.1%
生ごみ	
なし 26.6%	効果あり 73.4%

トイレ	
なし 24.4%	効果あり 75.6%
部屋・靴箱	
なし 11.4%	効果あり 88.6%

ほとんどが原液をスプレーする使用方法。糠床の発酵をすすめるなどの食品への利用もある。台所や流し台の消臭やぬめりが取れるなど。生ごみ、汲み取り式のトイレなどの消臭効果も大きい。部屋や靴箱も同様。

気付いたことや意見は202人からあった

効果があるという感想などは51%、効果がないというものは6.4%、要望、質問などが28.2%、その他が14.4%

○効果があると答えている人の多くに、「環境にやさしく安心して使える」という意見が多くあった。「希釈して使うので、価格が高くないことに気付いた」という記述もある。

○効果がなかったという人は、「あまり効き目がないように思う」「使用歴が浅く実感がない」など。

まとめ

植物・ペット・家庭での使用がそれぞれ全体の3分の1ずつ。生花・水槽・など「水」に直接関係する使用方法に大きな効果が認められる。

一方で説明書や希釈の割合などの使用方法が知りたいという声は大きい。

※BM菌体による生ごみ処理をしやすくするための容器

「1人1袋」の利用で守ろう!国産落花生

2011年12月21日、熊本市で、組合員と落花生生産者、メーカー22人が参加して交流会を行い、2011年度の生産奨励金を届けました。

栽培方法が分かる安心・安全な国産落花生。年に1度、組合員1人が1袋を利用することで、生産者は生産を続けることができます。ひいては日本の農業を守ることに繋がります。みんなで国産落花生を利用しましょう!



くまもと理事長の久米田薫さんが、生産奨励金の目録を生産者の渡辺さんに手渡しました

この事態を受けて、グリーンコープは日本の農業を守る目的で、生産奨励金の仕組みを適用し、落花生の生産を呼びかけました。現在生産者

交流会の開催にあたって、おおい理事長の奥田富美子さんは「今日参加している組合員の半数以上が、落花生の生産者との交流は初めてです。この出会いを大切に、国産落花生の取り組みをすすめていきます」と挨拶しました。その後の贈呈式で、くまもと理事長の久米田薫さんから生産者の渡辺安之さんに生産奨励金325万6000円の目録が手渡されました。

落花生商品がなくなる危機を救った熊本産落花生

グリーンコープでは、安心・安全な食べものを追求するために、可能な限り国産原料を使っています。「おつまみ豆」などの商品にも千葉県産落花生を使っています。しかし、2007年、中国産商品の残留農薬が問題となって輸入がストップ。需要が千葉県産落花生に集中したため価格が高騰。原料の確保が難しくなると、グリーンコープでは「おつまみ豆」「柿ピーナツ」などの商品が企画中止となりました。そんな中で出会った九州に唯一残るピーナツの集荷・加工メーカーの熊本ピーナツと製造卸を担う(株)南風堂の協力で、急遽、熊本の落花生生産者から原料を確保することができました。

は熊本県内の20人、作付面積は407アールまでに広がっています。

しかし一方で、グリーンコープでの利用は、2009年度の3分の1ほどにまで減った商品もあります。企画回数を増やして底上げを図っているものの、このままでは国内産落花生の生産を維持できません。また、輸入に頼る構造では、安心・安全な食べものを手に入れることができなくなります。

もっと知りたい!落花生

交流会では生産者から、草取りや鳥による被害が大変だという話がありました。工夫と経験を重ねて徐々に鳥害対策の成果がでている生産者もいると報告がある、と、少しでも生産者の大変な作業が減ればとの思いから、組合員からは生産者同士の情報交換の場があるのか質問が出されました。落花生のことを知るために、実際に草取りや収穫体験などの交流を行いたいなどの意見も出されました。

生産者の東さんは「利用してくれるところがないと栽培することはできません。無農薬で家族の分だけを作っていました、グリーン

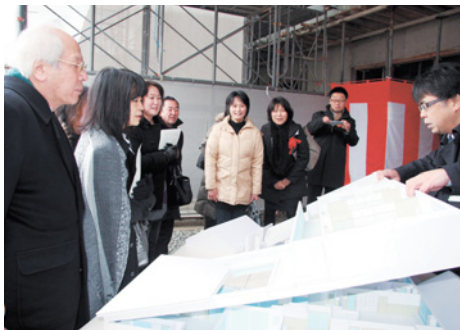


応援しよう!
生産奨励金
カタログGREENの対象商品についているマーク

地域へ広がる 子育て支援

グリーンコープの福祉は、誰もが助けあい、支えあう地域社会の実現をめざして、ますます広がっています。

2012年4月、福岡市に開所するグリーンコープの保育所と幼稚園の上棟式が、2011年12月17日の午前と午後それぞれ行われました。開園へ向けて、順調に準備がすすんでいます。



地域に
根付いた
「大きなお家」に
「松島りすの森保育園」

上棟式は、社会福祉法人グリーンコープやグリーンコープ生協ふくおか、グリーンコープ共同体、福祉ワーカーズ連合会の関係者のほかに、地域の方々やスタッフも迎えて約80人の参加で行われました。

ふくおか理事長の田原幸子さんが「グリーンコープらしい保育所を開設しようと検討をすすめてきました。地域の方に歓迎していただ

いてうれしく思います」と、また共同体代表理事の田中裕子さんは「グリーンコープの認可保育所としてはこれが第一歩です。この夢がオールグリーンコープに広がっていけばと思います」と挨拶しました。

その後、参加者は施設の概要の説明を受け、内覧を行いました。「大きなお家」というコンセプトで、屋根材から教室内の床、壁、天井、照明まで安全性と快適さにこだわっています。また環境にも配慮したつくりで太陽光発電も備えていることや、災害時には地域の避難拠点にもなるように配慮して設計されていることなどが話されました。

お祝いの餅まきの後には、園長になる予定の林伸子さんからスタッフの紹介もありました。参加者からは「春になってこの施設が園児でいっぱいになるのが楽しみです」との声が出されました。

▲施設の説明を聞く参加者



香椎照葉幼稚園園長となる予定の田北和子さん

いのちに寄り添う
教育をめざして
「香椎照葉幼稚園」

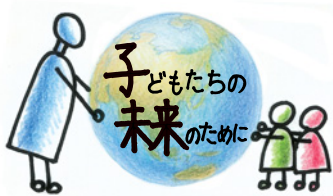
(仮称) 学校法人グリーンコープ香椎照葉幼稚園は、現在認可申請中で、2013年4月開園予定です(2012年4月からは「香椎照葉幼稚園」として開園します)。上棟式は、学校法人グリーンコープ香椎照葉幼稚園設立発起人会(以下、設立発起人会)やグリーンコープ共同体、グリーンコープ生協ふくおかなどの関係者だけでなく、近隣からもたくさんの方の参加があり、総勢150人以上でにぎやかに行われました。

設立発起人会共同代表田中裕子さん(共同体代表理事)は、「さまざまなことを乗り越えながら今日に至りました。未来をつないでいく子どもたちが、静かな環境の中で健やかに育っていく幼稚園を建てることのできたことをみんなで喜びたいと思います」と挨拶しました。

上棟を祝う餅まきの後、設立発起人会共同代表の田北和子さんが「今日のこの日を迎えることができて夢のようです。たくさん皆さんの思いがかたちになったと思います。ありがとうございます」と感謝の言葉を述べました。

投稿募集中

●400字程度
●毎月月末
●住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
●住所・氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。
〒812-8561
福岡市博多区博多駅前1丁目5-1
カーニオプレイス博多3F
グリーンコープコミュニケーションワーカーズ連(REN)「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp



No.43

「3.11から1年」

昨年3.11の東日本大震災で亡くなられた方のご冥福をお祈りし、被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。

東京電力福島第一原子力発電所は大量の放射能を環境中に放出する大事故を引き起こしました。その量は放射性セシウム137換算で広島に落とされた原爆の168.5個分と言われています。グリーンコープは、原発は生命(いのち)を脅かすものとして脱原発の運動をすすめてきました。しかし、昨年の原発事故を未然に防ぐことはできませんでした。痛恨の思いです。

事故が起きてしまった今、私たちができることは、未来を担う子どもたちのために可能な限り汚染の少ない食べものを確保し続けることと、脱原発社会を実現するために行動することです。声を上げないことで、結果的に原発を容認してきてしまった多くの人たちの後悔の涙を、忘れてはいけません。自分だけでなく愛しいすべての生命(いのち)のために、できることをしていきましょう。

参考文献:2011年11月13日「さよなら原発!福岡1万人集会」集会宣言
グリーンコープ共同体組織委員会

ここで苦楽を分かちあい 幸せな子育て期を過ごして欲しい

いま地域を考える

No.221



左からボランティアの金尾さんと、スタッフの若井さん、奥野さん、内田さん



今日も、たくさんの親子が集まって賑やか



NPO法人こどもステーション

「久しぶりね。元気だった？」「この子、歩きはじめたんですよ」。受付を済ませたお母さんたちの会話がはじまり、笑顔があふれる。「子どもとお母さんが喜んでいる姿を見るのが私の楽しみ」と語る奥野さん。子どもが小さい時に一緒に観た芝居の楽しさを、他のお母さんたちにも伝えたいと思ったが、芝居を観るのにはお金がかかる。お金をかけない方法として絵本の読み聞かせをする「こども文庫」を思いついた。2002年3月に、2人の友だちに声をかけて神辺町の中条公民館で立ち上げた。

やがて参加するお母さんたちから、週一回だけでなく毎日集うことのできる「ひろば」にしたいという声が出るようになった。この日の「親と子のいこいのスペース」のスタッフ若井さんもそういうお母さんの一人。もう一人のスタッフ内田さんを中心に、「親と子のいこいのスペース『ひだまり』」を運営している。

子ども・子育て情報紙「はらっぱ」も発行している。毎月発行できるように、地域の企業・店舗・事業主「ゆかたの着付けができるようになりたい」という一人のお母さんの声から、子ども連れでも参加できる「レッツチャレンジゆかた」を開催した。4月から保育所や幼稚園に入園する仲間

お母さんがホッとする場

広島県福山市に、楽しく幸せな子育てと子どもたちの幸せを願って、地域で子育て・子育てを応援する「NPO法人こどもステーション」があります。毎週開催されている「親と子のいこいのスペース」を訪ね、理事長の奥野しのぶさんに話を聞きました。

子どもとお母さんが喜ぶ姿を見たい

2005年1月に任意団体「こどもステーション」を発足。2010年12月には活動当初からの目標だったNPO法人格を取得した。主な事業は「子育てひろば」「親と子のいこいのスペース」の中で、「こども文庫」の他、「音のひろば」「赤ちゃんひろば」など次々とお母さんたちに必要とされることを参加者の協力で実施してきた。現在の開催場所は、毎週月曜日が中条公民館、毎週木曜日が神辺公民館、毎月第一金曜日が湯田公民館と1カ所には定まっていらない。それでも口コミで、参加者は年々増え続けている。

子育てに必要な支援が盛りだくさん



受付の時からおしゃべりが弾みます

親と子のいこいのスペース

2カ月ぐらいの赤ちゃんから就園前の子とその保護者が対象。子どもを遊ばせながら、いろんな話をしたり、絵本の読み聞かせ、わらべうた、手遊びなどもしている。

赤ちゃんひろば

ねんね・ハイハイの時期の赤ちゃんに保護者が集まるひろば。赤ちゃん体操やベビーマッサージなどを行っている。

音のひろば

季節にあわせた曲目をピックアップして、歌ったり、打楽器を使ってリズムを楽しんだりしている。

こども文庫



お茶を飲みながら、子育ての情報交換

「子どもステーション」の主な収入源は正会員と支援会員による年会費。その他、「親と子のいこいのスペース」の利用料100円を2011年8月から集めることにし、カンパ・寄付も呼びかけている。しかし、スタッフへの支給は交通費を送り出す「祝いの会」もスタッフとお母さんたちみんなで作成する。お母さんたちは「やりたいことが実現できることが魅力」、「親のほろがホッとする素敵なひろば」だと言っている。スタッフも、こういう場が本当に必要だと思っている。そしてみんなが楽しんでいる。「ここに来たときぐらいはゆつくりして欲しい」と奥野さん。

「子どもステーション」は、子どもや子どもに関わるすべての人が、安心して自由に参加者みんなが子どもをあたたく見守りあっている。NPO活動でも生活ができるように「コミュニケーションの拠点が必要」

コミュニケーションの拠点が欲しい

「子どもステーション」の主な収入源は正会員と支援会員による年会費。その他、「親と子のいこいのスペース」の利用料100円を2011年8月から集めることにし、カンパ・寄付も呼びかけている。しかし、スタッフへの支給は交通費を送り出す「祝いの会」もスタッフとお母さんたちみんなで作成する。お母さんたちは「やりたいことが実現できることが魅力」、「親のほろがホッとする素敵なひろば」だと言っている。スタッフも、こういう場が本当に必要だと思っている。そしてみんなが楽しんでいる。「ここに来たときぐらいはゆつくりして欲しい」と奥野さん。

「子どもステーション」の主な収入源は正会員と支援会員による年会費。その他、「親と子のいこいのスペース」の利用料100円を2011年8月から集めることにし、カンパ・寄付も呼びかけている。しかし、スタッフへの支給は交通費を送り出す「祝いの会」もスタッフとお母さんたちみんなで作成する。お母さんたちは「やりたいことが実現できることが魅力」、「親のほろがホッとする素敵なひろば」だと言っている。スタッフも、こういう場が本当に必要だと思っている。そしてみんなが楽しんでいる。「ここに来たときぐらいはゆつくりして欲しい」と奥野さん。

2012年1月の組合員数 392364人 (1/20現在)

リユースリサイクルデータ 2011年12月分 リユースびん 回収本数 121,408本 回収率 45.8% モウルドバック 回収重量 30,790kg 回収率 110.5%	牛乳びん 回収本数 864,207本 回収率 98.2% (11月13日～12月17日回収分) トレー 回収重量 10,281kg 回収率 48.8% 仕分け袋 回収重量 1,770kg 回収率 10.1%	フードマイレージ 2009年9月から2012年1月までに組合員の利用によってたまったのは 152,946,407.6 CO ₂ に換算して15,294トン削減したことになります アジア民衆基金 2009年4月から2012年1月までに組合員の利用によってたまったのは 24,234,006円
--	---	---

放射能汚染測定結果は、別紙の残留放射能検査結果に掲載しています。

「ふくやまCAPスィミ」で「デパートDV防止ひろしま」など子どもの人権に関わる活動もしている奥野さんは、これらの経験を生かし、今後は子どもや女性の人権に関する相談事業にも取り組みたいと考えている。「こどもステーション」の子育て・子育て応援は、市民や企業の協力で今後も広がっていく。NPO法人こどもステーション <http://kodomostation.or.jp/>

今後広がる子育て・子育て応援

共生の時代

別紙

- 発行 グリーンコープ共同体理事会
- 編集 共生の時代・編集部
- 〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
カーニープレイス博多3階
- 電話 (092) 481-7923 ●FAX (092) 481-7876
- ホームページ：http://www.greencoop.or.jp/

放射能汚染と向きあう (放射能測定室より)

東京電力の原子力発電所の事故を受けて行った残留放射能検査結果⑩

2012年1月17日～2月2日に検査した35品目はすべて検出限界値未満でした。
「検出限界値」とは、放射能検査において測定できる最小値のことをいいます。放射能の特性として、
同じ機器で測定しても検体ごとに検出限界値は変動します。

※検査法の記号「Ge」はゲルマニウム半導体検出器での測定であることを示しています
「NaI」はNaIシンチレーションスペクトロメータでの測定であることを示しています

番号	商品名	製造地・生産地	製造日・収穫日等	測定日	検査法 (Ge/NaI)	ヨウ素		セシウム-134		セシウム-137	
						結果 (Bq/kg)	検出限界値 (Bq/kg)	結果 (Bq/kg)	検出限界値 (Bq/kg)	結果 (Bq/kg)	検出限界値 (Bq/kg)
413	牛乳deぶるりん(白桃)	岩手県岩手郡	(原料白桃)2011年8月31日～9月2日収穫	2012年 2月 2日	NaI	検出限界値未満	2.19	検出限界値未満	3.46	検出限界値未満	3.41
412	海水塩(なごさ)	長崎県西海市	2011年11月24日製造	2012年 2月 2日	NaI	検出限界値未満	3.63	検出限界値未満	5.81	検出限界値未満	5.70
411	産直いちご(宗像生産者グループ)	福岡県宗像市	2012年1月28～29日収穫	2012年 2月 2日	NaI	検出限界値未満	2.56	検出限界値未満	4.12	検出限界値未満	3.99
410	産直小松菜(清和有農会)	熊本県上益城郡	2012年 1月30日収穫	2012年 2月 2日	NaI	検出限界値未満	2.80	検出限界値未満	4.77	検出限界値未満	4.60
409	産直いちご(島原自然塾)	長崎県島原市	2012年 1月28日収穫	2012年 2月 2日	NaI	検出限界値未満	2.75	検出限界値未満	4.54	検出限界値未満	4.39
408	産直下郷農協若鶏ムネ	大分県中津市	2011年11月29日製造	2012年 2月 2日	NaI	検出限界値未満	4.05	検出限界値未満	6.56	検出限界値未満	6.41
407	こだわりのひとくちうやや(だし付)	長野県飯田市	2011年 1月10日製造	2012年 2月 1日	NaI	検出限界値未満	2.59	検出限界値未満	4.39	検出限界値未満	4.25
406	薄力小麦粉	福岡県福岡市	2012年 1月 7日製造	2012年 2月 1日	NaI	検出限界値未満	2.45	検出限界値未満	4.00	検出限界値未満	3.91
405	高原朝霧有機上煎茶	宮崎県小林市	2012年 1月19日製造	2012年 2月 1日	NaI	検出限界値未満	2.98	検出限界値未満	5.11	検出限界値未満	4.87
404	産直かぶ(栄光園グループ)	福岡県古賀市	2012年 1月27日収穫	2012年 1月31日	NaI	検出限界値未満	2.95	検出限界値未満	4.88	検出限界値未満	4.71
403	産直赤とんぼ米のチキンドリア	栃木県真岡市	2012年 1月12日製造	2012年 1月31日	NaI	検出限界値未満	2.78	検出限界値未満	4.39	検出限界値未満	4.33
402	産直赤とんぼ米の焼かレードリア	栃木県真岡市	2012年 1月13日製造	2012年 1月31日	NaI	検出限界値未満	2.79	検出限界値未満	4.58	検出限界値未満	4.48
401	産地指定米魚沼こしひかり[玄米](福島県みずほ農園)	福島県河沼郡	2011年10月18日収穫	2012年 1月30日	NaI	検出限界値未満	2.40	検出限界値未満	3.97	検出限界値未満	3.87
400	産地指定米魚沼こしひかり[玄米](福島県みずほ農園)	福島県河沼郡	2011年10月18日収穫	2012年 1月30日	NaI	検出限界値未満	2.45	検出限界値未満	4.07	検出限界値未満	3.96
399	雪印北海道100芳醇ゴーダクラッシュ	山梨県北杜市	2011年12月28日製造	2012年 1月27日	NaI	検出限界値未満	2.61	検出限界値未満	4.17	検出限界値未満	4.06
398	すぐ腕カレー(中辛)	埼玉県坂戸市	2011年12月 8日製造	2012年 1月27日	NaI	検出限界値未満	2.66	検出限界値未満	4.21	検出限界値未満	4.13
397	北海道産サーモンステーキカット(甘塩味)	北海道オホーツク海	(原料さけ・ます)2011年8～9月漁獲	2012年 1月26日	NaI	検出限界値未満	2.88	検出限界値未満	4.51	検出限界値未満	4.45
396	餅入りきんちゃく	福岡県朝倉郡	2012年 1月24日製造	2012年 1月26日	NaI	検出限界値未満	2.46	検出限界値未満	4.07	検出限界値未満	3.96
395	産直たまご(グリーンファーム久住)	大分県竹田市	2012年 1月24日採取	2012年 1月26日	NaI	検出限界値未満	2.72	検出限界値未満	4.40	検出限界値未満	4.27
394	産直たまご(那須ファーム)	熊本県宇城市	2012年 1月25日採取	2012年 1月26日	NaI	検出限界値未満	2.80	検出限界値未満	4.58	検出限界値未満	4.49
393	牛豚合ミンチ(国産)	熊本県熊本市	2012年 1月25日製造	2012年 1月26日	NaI	検出限界値未満	2.90	検出限界値未満	4.82	検出限界値未満	4.67
392	産直いちご(ながさき南部生産組合)	長崎県南島原市	2012年 1月24日収穫	2012年 1月25日	NaI	検出限界値未満	2.56	検出限界値未満	4.17	検出限界値未満	4.05
391	かつおだし	鳥取県境港市	2011年12月 7日製造	2012年 1月25日	NaI	検出限界値未満	2.64	検出限界値未満	4.38	検出限界値未満	4.22
390	弁当用秋鮭	北海道全域	(原料しろざけ)2011年9～11月漁獲	2012年 1月24日	NaI	検出限界値未満	2.96	検出限界値未満	4.78	検出限界値未満	4.66
389	丸干し芋	茨城県かすみがうら市	(原料芋)2010年10～12月収穫	2012年 1月23日	NaI	検出限界値未満	2.49	検出限界値未満	3.99	検出限界値未満	3.86
388	手づくり用チョコ(ミルク)	長野県埴科郡	2011年10月19日製造	2012年 1月23日	NaI	検出限界値未満	2.86	検出限界値未満	4.64	検出限界値未満	4.47
387	国産穀物を使った産直たまご(ヨコテ)	福岡県福岡市	2012年 1月19日採取	2012年 1月23日	NaI	検出限界値未満	2.81	検出限界値未満	4.54	検出限界値未満	4.43
386	栃木産干瓢 無漂白	栃木県下野市	(原料干瓢)2011年7月収穫	2012年 1月20日	NaI	検出限界値未満	3.02	検出限界値未満	3.72	検出限界値未満	4.95
385	ホットケーキミックス	大阪府貝塚市	2011年10月17日製造	2012年 1月20日	NaI	検出限界値未満	2.52	検出限界値未満	4.05	検出限界値未満	3.94
384	三色だんご	岩手県花巻市	2011年12月 7日製造	2012年 1月20日	NaI	検出限界値未満	2.10	検出限界値未満	3.41	検出限界値未満	3.33
383	サラダせんべい	山形県村山市	2011年12月15日製造	2012年 1月19日	NaI	検出限界値未満	2.44	検出限界値未満	4.14	検出限界値未満	4.01
382	黄金ささいか	青森県むつ市	2011年12月26日製造	2012年 1月18日	NaI	検出限界値未満	2.69	検出限界値未満	4.66	検出限界値未満	4.44
381	サラダせんべい	山形県村山市	2011年11月30日製造	2012年 1月18日	NaI	検出限界値未満	2.59	検出限界値未満	4.37	検出限界値未満	4.28
380	高原朝霧有機ほうじ茶ティーバッグ	宮崎県小林市	2011年10月27日製造	2012年 1月17日	NaI	検出限界値未満	2.63	検出限界値未満	4.61	検出限界値未満	4.40
379	青森県産あんこう鍋用	長崎県長崎市	2011年12月28日製造	2012年 1月17日	NaI	検出限界値未満	2.95	検出限界値未満	4.75	検出限界値未満	4.60

検査結果については、ホームページでも週に一度のペースでお知らせします。表記についてもホームページと同様にしています

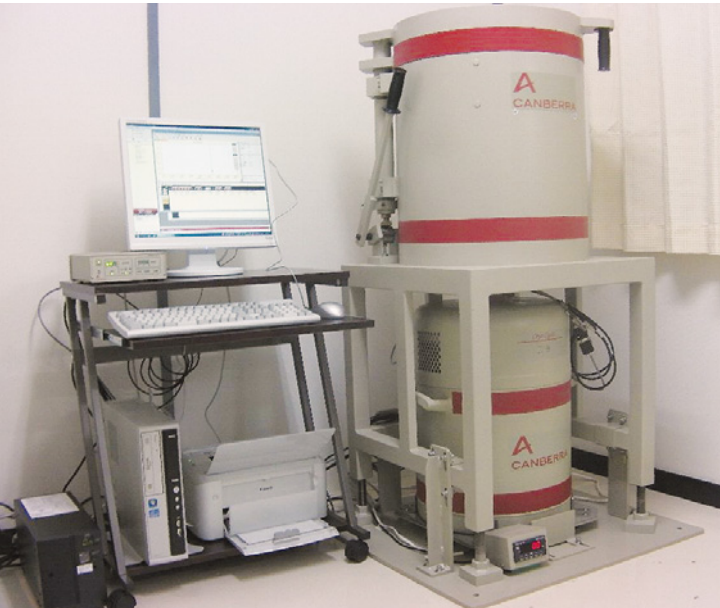
検査対象エリア グリーンコープは、商品や原料について放射能汚染が心配される地域を、関東から東北地方と
考えています。文部科学省から出されている（新聞で報道されている）大気中の「環境放射能
水準調査結果」を基に、通常レベルより高いエリアについても検査対象としています。なお、
対象エリア以外の商品でも、牛乳など日常的に多く摂取する商品及び椎茸など放射性物質を蓄
積しやすい商品は検査することにしています。また、水産物については、近隣海域の放射能汚
染状況が調査・公表されています。その情報などを基に漁獲海域によって放射能検査をする対
象を判断していきます。

検査対象 2011年3月11日以降に、生産・製造・保管されていた商品及び原料を順次検査しています。
定期的なサイクルで検査を行えるよう年間計画を立てて検査します。

検査機関 2011年10月よりグリーンコープ放射能測定室（福岡市）で検査を開始しました。ただし、
グリーンコープ放射能測定室で検査可能な品目数を超えた場合などは、これまでと同様に外部
機関に検査を委託することもあります。

検査日 検体を測定した日を記入しています。

検査結果の表記 ヨウ素とセシウム134、セシウム137の3種類について結果をお知らせします。
※検出限界値未満とは、放射能は0ではなく、放射能は存在する可能性があるということです。
厚生労働省から2011年9月29日付けで、検出限界値未満の結果については、測定によって
得られた検出限界値を表示するよう通知が出されており、国や自治体から公表される検査結
果には、「不検出」や「検出せず」ではなく、検出限界値が表示されるようになりました。



2012年2月に導入したゲルマニウム半導体検出器。より多くの取り扱い商品の測定が可能になりました

シリーズ(6)
被災地復興の今被災地の
地域コミュニティづくりを
支援しています

大船渡の取り組みについて

大船渡では、共生地域創造財団（以下、財団）が中心となり、約20の団体（民生委員や支援団体等）が2週間に一度集まっています。それぞれの支援活動の共有や課題への対応相談を行っています。

避難所から自宅に戻った在宅被災者には物資が行き渡らず仮設住宅に比べ情報が届かないため、在宅被災者への支援活動を強化しています。在宅被災者の情報はなく1軒1軒尋ねて聞き取って対応しています。

蛤浜での役割を終えたボランティア用宿舎兼物資倉庫（プレハブ）は大船渡の地元の方に提供いただいた土地に移し物資倉庫として活躍しています。この物資倉庫から、仮設住宅、みなし仮設住宅、在宅被災者の皆さんに必要な時に必要な支援物資をお届けできています。

この間の財団の取り組みが評価され、大船渡市から在宅被災者の見守り支援の要請が届けられており、現在どのようなことができるか行政と協議を行っています。

グリーンコープの人的支援

グリーンコープの職員の震災後からの被災地での支援は64人、延べ511日になつています。この間の活動は、瓦礫撤去（海岸、畑、工場）、清掃、倉庫内での物資振り分け準備、被災地配達、配布会準備対応等を行っています。被災地で活動し、被災地の大変さを感じ、引き続き支援が必要と帰られています。福祉ワーカーの支援は7

月から1月末までに約60人、延べ500日になつています。現在、支援している介護老人保健施設、デイサービスセンターは自立に向けて準備をされていますが、地域内の同じような施設が被災しており他に対応できる施設も少なく、まだまだ大変なようすから暫く支援が続く予定です。

農業、漁業支援

農業支援は、この間の瓦礫の撤去、菜の花の作付け、イチゴ農家支援を継続して

います。復興に向けた土地活用については、行政の復興政策の具体化も少しずつ進んでいます。明るい光はまだ遠く、独自の農家支援を検討していくことにしています。

この間支援を続けてきた蛤浜は、宮城県の漁港再編での拠点漁港（60カ所）から外れ、必要最小限の復旧にとどめられることになりました。そんな中、隣の折浜の漁師さんと一緒に5人で復興に向けて取り組まれています。現在、夏に種付

けをした牡蠣いまだが2台海に浮かんでいます。牡蠣養殖で生活するためには1人が6台のいかだを持つことが必要です。春に向けて、いかだの資材の手配などの準備に入られています。牡蠣のむき小屋等の加工施設はこれから漁協とも協議し準備に入り、支援していくことにしています。また、必要とされる春からのいかだを入れる作業準備で人的支援が必要になり、財団で必要な時期にボランティアの募集を行い支援していく予定です。

コミュニティづくりと
就労支援

物資支援をしてきた仮設住宅で就労支援と地域コミュニティづくりの面から支援できることを進めています。宮城県南部に位置する亘理町は、今もなお多くの人が仮設住宅などで不自由な生活していますが、そんな中でコミュニティづくり、就労支援も含めた「ふぐろ」作りの活動がはじまりました。かつて亘理に暮らす人たちは、相手になにかを手渡す時には感謝の気持ちをあらわして、着

物の残り布で仕立てておいた「袋」に入れていました。今でも「ふぐろ」が訛って、「ふぐろ」と呼ばれています。地震・津波で大切なものを無くした皆さんが、建物を取り壊すことになった亘理町内の呉服店からゆずっていたいた昭和の時代の古い生地を使い、「FUGURO（ふぐろ）」を再現しています。着物生地等の手配支援や出来上がったFUGUROをグリーンコープで取り扱うなどの支援を行うことにしています。（共生地域創造財団より報告）

被災者からの
メッセージ
大船渡

仮設住宅、在宅被災者の皆さんから、グリーンコープ組合員の皆さんへのお礼のメッセージが沢山届いています



大船渡の仮設住宅集会所での配布会のようす



▲山元町在宅被災者のところでは薄い毛布しか配布されなかったことから多くの方から毛布の要望があり、トラック2台分を届けた



亘理町で作られる「FUGURO」



◀大船渡の物資倉庫から物資を届けているようす



瓦礫撤去は少しずつ進んでいるが、排水や塩分濃度問題もあり、何も作付けできない亘理町の海岸沿いの畑



陸前高田の菜の花畑。菜の花と麦を他の団体と共同で、3反ずつ作付けた。雪の下にはしっかり芽がでている